



第22回 日本肘関節学会学術集会
ランチオンセミナーI

肘関節周囲で 起こっていること

～ enthesis biologyの理解～

日時

平成22年2月13日(土)
12:00～13:00

会場

ラフレさいたま
第一会場 3階 桜ホール

〒330-0081 埼玉県さいたま市中央区新都心3-2
TEL 048-601-1111 FAX 048-600-5501

座長

長野 昭 先生
浜松医科大学 名誉教授

演者

熊井 司 先生
奈良県立医科大学整形外科 講師

【認定単位】

日手会 …… NO. 1 (開放創、植皮、皮弁)、NO. 10 (手関節疾患)

日整会 …… NO. 1 (整形外科基礎科学)、NO. 9 (肩甲体・肩・肘関節疾患)

共催

第22回 日本肘関節学会学術集会
三笠製薬株式会社

肘関節周囲で 起こっていること

～ enthesis biologyの理解 ～

演者

熊井 司 先生

奈良県立医科大学整形外科 講師



肘関節周囲には多くの筋腱が骨に付着している。さらに肘関節の関節安定性を確保するための靭帯組織も骨に付着している。これら腱・靭帯付着部での障害は上腕骨外側上顆炎をはじめ広く知られている。一般に腱、靭帯、関節包の骨への付着部は 'enthesis' と呼ばれており、古くから解剖学やリウマチ学の分野で多く用いられてきた。このenthesisにおける障害は 'enthesopathy' と呼ばれ、付着部に生じる疾患の総称として整形外科医にとっても馴染み深いものになりつつある。その中でも、繰り返す微小外傷による機械的な要因 (mechanically-induced enthesopathy) を主体とするenthesopathyは、いわゆるoveruse injuryとして日常整形外科診療においてもよく見かけられる。

我々はこのenthesisに起こる障害を理解するために、その構造の特徴についての検討を重ねてきた。今回の講演では、一般的なenthesisの構造と機能についての新たな捉え方を紹介するとともに、「肘関節周囲のenthesisで起こっていること」についてenthesis biologyの観点から迫ってみたい。

● 職 歴

昭和61年 奈良県立医科大学卒業
同 年 奈良県立医科大学 整形外科教室入局
奈良県救命救急センター
国家公務員共済組合連合会 大手前病院 など関連病院に
平成 9年 奈良県立奈良病院 (整形外科医長)
平成14年 阪奈中央病院 (整形外科部長)
平成16年 奈良県立医科大学 整形外科 助手
平成18年 奈良県立医科大学 整形外科 講師 現在に至る
同 年 福建医科大学 (中華人民共和国) 客員教授 現在に至る

● 留 学 歴

平成12年 英国ウェールズ大学 Connective Tissue Biology Laboratoryおよび
～14年 ドイツ:ミュンヘン大学 解剖学教室
平成17年 タイ:Chiang Mai (チェンマイ) 大学 整形外科および解剖学 派遣研究員

● 専門及び社会活動

スポーツ医学、機能解剖学、足の外科学 (特に足関節鏡視下手術)
シモノレーシング・プロサイクリングチーム チームドクター (平成17年～)